



# 山形南高(山形中・高) 東京同窓会報

第九号  
平成24年10月20日発行  
千代田区平河町2-6-3  
山形県東京事務所内  
山南東京同窓会事務局  
齋藤 常男  
編集人代表 小松 栄三郎



## 山形南高の4つの力で 頑張っている！



山形南高東京同窓会  
会長 齋藤 常男

山形南高は創立70年になりました。卒業生は各界で大活躍し、社会貢献しております。こういう方々がいるということは、私達の誇りであります。こうした方々の精神を支え、成長させてきたものは何かと常々考えてきました。

私達は「生き抜く力」がなければ生きていくことができません。今年8月、千歳の山を仰ぎ見ながら、高校生活3年間で追想し南高を訪問しました。在校生は夏休みを返上し、部活動に精力的に取り組み汗を流していました。校舎入口には、「質実剛健、師弟同行、文武両道」と墨痕淋

漓で大書されていました。

この3つの建学精神を見て、「そうだ。私達を支えているものは、この3つの建学精神だ」と強く思いました。

私達は在学中、建学精神や校風などをあまり意識しません。私達は実社会に出て、激しい競争社会を生き抜くために「負けないぞ」「諦めないぞ」「もっと頑張るぞ」と、自分を叱咤激励し頑張ってきました。この頑張り、この力はどこからきたのかと、考え歩み続けてきました。

私達は、人間形成で大事な時期、高校3年間の生活で、建学精神が「体と心」にしっかりと入ったから「生きる力」になったのではないでしょう

か。南高生は強い力を持っているといつも思っています。私達は、もうひとつの力「団結力」を持っています。毎年、山形同窓会の懇親会に700名の方々が出席します。この出席者の「数」は驚異的であります。団結の重要性を誰かが教えたわけではありませ

## 第九号

平成24年10月20日発行  
千代田区平河町2-6-3  
山形県東京事務所内  
山南東京同窓会事務局

齋藤 常男  
編集人代表 小松 栄三郎

小松 栄三郎

いま混沌とした情勢下にあります。先行きも不透明であります。このような世の中にあつて、山形南高の「4つの力」で力強く生き抜いていけると確信しております。

同窓生の皆さん！夢と希望を持つて、共に人生を歩んでいきましょう。人生の辛さ、きびしさ、耐え抜く中でしあわせがやどる

## 大学受験好成绩 挑戦する南高健児



山形南高同窓会  
会長 佐藤 充彦

我が母校、山形南高は「文武両道」を校是としています。同窓生の関心は運動部の競技結果に向かいがちです。しかし現役諸君は大学受験でも素晴らしい成果を挙げていま

す。

経済誌『ダイヤモンド』は五月の特大号で、全国「大学合格力、高校ランキング」を発表しました。このランキングで山形南高は全国の進学校一六一六校中、東北で八番目、全国で一三四番目にランクされました。入試難易度の高い国公立大学100校について学部別の入試偏差値を平均して大学ごとの偏差値を算出し、これに各高校の合格者数、卒業生数を加味して一六一六校を選び、大学合格力をはじき出したものです。

全国のベスト5は、すべて私立高校で、1位は奈良の東大寺学園、2位兵庫の甲陽学院、3位大阪星光学院、4位兵庫の灘高校、5位広島市の広島学院でした。東北地方では、山形東が断トツでトップ(全国29位)以下、仙台三高、盛岡一高、秋田高、米沢興譲館(全国93位)、八戸高、仙台三高、そして8番目に山形南高がランクされています。昨年は全国で246位でしたから、ことしは100位以上ランクを上げたことになりました。

南高生の国公立大学の合格者は、山形大学66名(県内1位)、東北大学16名(県内2位)、新潟大24名、筑波大2名、東京工業大1名など、総計169名、最も健闘した平成18年の170名に迫る良い成績でした。

生徒たちは、夏休み中蔵王で入試に向けた合宿を行うなど受験モードに入っており、同窓生として1月のセンター試験で好成绩を修めるよう願うばかりです。





## ああ甲子園 あれから55年

南高8回卒 吉野 潔

私は夏の高校野球甲子園大会が近づくと、55年前の事が思い出される。あれは昭和32年の夏だった。その頃は山形、宮城、福島から甲子園に出場するのは1校だけだった。東北大会の決勝は、準決勝で東北高を破った山形南と双葉高(福島)を破った山形商業との対戦となった。お互いに手の内を知ったチームで、延長11回2対1で南高が県大会決勝の雪辱を果たし、念願の2回目の甲子園出場を勝ち得た。学校側は急遽、応援団を含め40人程の応援チームを編成し私もその1人で、当時はプラスチックバンドは無く、大声を張り上げての応援だった。

応援チームは山形を夜行列車で発ち、翌朝上野に着き東京で乗り継ぎ大阪に向かった。あの頃は南高には修学旅行はなく、私も東京から先は初めてで、長い丹那トンネルや車窓から観る富士山に感動し、夕方に甲子園近くの旅館にや々と着いた。

翌日、南高は第39回高校野球甲子園大会の開会式直後の開幕試合となり、対戦相手は香川の坂出商業で前評判の高い好投手安藤がいた。南高は高橋、沼尻のバッテリーだった。2回裏だったと思うが、南高の黒木が2塁打を打ち「それ行け」と言う

時に大雨になり、試合は中断されたが、我々は雨に濡れにならなから応援を続けた。ついに試合は翌日に順延となり、ずぶ濡れになつて旅館に帰り、アイロンでズボン等を乾かし翌日に備えた。



翌日は快晴で相手校の安藤投手も立ち直り、素晴らしいピッチングをされて南高は負けてしまった。応援チームは当日大阪を夜行列車で日本海周りで帰ることになった。大勢のお盆の帰省客と共に、甲子園の思い出をいっばい乗せて夜行列車は翌日酒田に着き、新庄を経由して山形に帰って来た。



## 獣医師にはなつたが

南高10回卒 赤松 勇二

私が山形南高に入学したのは、54年前の昭和33年である。クラブ活動は新聞部であった。3年生になって、進学先を決める必要があり、猫が好きだったことだけで獣医師を志し、獣医学科のある大学を目指し、親もこれを許した。運よく、第一志望が叶い、岩手大学の獣医学科へ入学することができた。下宿先は、盛岡市内の豆腐屋で、ネズミの被害を避けるため、大きな雄猫を飼っていた。名前はタロウという。朝方になると必ずと言って良いほど、私の布団にもぐりこんできた。夜行性の猫、特に雄猫は、昼間、安心して眠るところを探す。その安住先の一つに私の部屋が選ばれたのだろう。光栄に感じた。そして私は、今から48年前の昭和39年に、念願の獣医師になったのである。

ところが、どこで、どう変わったのか、猫科の獣医師を目指したにもかかわらず、職業としての対象となった動物は、牛、馬等の大動物であった。それも北海道で。毎日、毎日、やれお産だ、検診だのとオートバイでかけずり回っているうち、腕の良い獣医師が来たと言評になった。その結果、志は、猫科であったはずなのに、診療科は、すっかり牛、馬等の大動物科になってしまった。

そのようなとき、地域の名士であった郵便局長が、大きな北海道犬しかも雄犬を連れてきて、大切な愛犬である、急におかしくなつた、是非、先生、診てくれという。私は困つた。犬は、これまで大学で、1、2回触つただけで、診療の経験がない。まして北海道犬など。しかし、犬は目の前でぐったりしている。もはや、腕が良いと評判になつていたので、断る訳にはいかない。早速、牛用の注射器でブドウ糖の静脈注射を施し様子を見た。そして、数分後、その大きな北海道犬は、しゃんと立ちあがり、元気になつたではないか。多分、今考えると、あの北海道犬は、雌犬を追っかけまわりすぎ、疲れていたのだろう。そして私は、郵便局長の口コミで、名医であるとの評判が益々高くなつた。

それから約40年間、犬猫はおろか牛、馬等の診療の業務からも離れることになった。そして、嫁からも、お父さん、本当に獣医師ですかと言われるまでになつた。それでは、よし、嫁の実家の飼い猫を健康かどうか診てやるといい、早速、嫁の実家を訪問し、嫌がる飼い猫を捕まえて、その爪を切つてやつた。そして、それから、見事に、嫁の実家の飼い猫は、私に寄りつかなくなつた。

私が今住んでいるところは、家庭内での犬猫飼養が比較的多いところである。しかし、今や近所では、私が獣医師であることを公言しないことになっている。

## 三度目の富士登山

南高12回卒 毛利 昭

初めて富士山に登ったのは昭和63年8月4日であった。傘寿を迎えた父と当時10歳だった息子との「親子三代富士登山」の敢行でもありました。登頂祈念に神社に参拝し80歳の証を示したところ、その年の富士登山長寿番付が送られてきました。それによると父は前頭14枚目に位置し、東の横綱を張っていたのは百歳に近い高齢の方でした。

以来二十有余年、再び富士山に登ったのは平成22年7月でした。認定NPO富士山クラブの会員として、富士山のゴミ拾いやバイオトイレ導入など、環境整備ボランティアに関わる人たちとの登山でもありました。三回目となる今回も富士山クラブ会員と共に須走口から山頂を目指すもので、比較的登山者の少ないルートでした。当初よりの雨模様で六合目に着いた頃には本格的な雨になってしまいました。日本列島に嵐が吹き荒んでも、自分の周りだけは晴れているなど、稀代の晴れ男としてその名を欲しいままにしていた私だったのですが、妖怪のような雨男(女?)の力には敵わなかった模様です。途中からの雨は、雹を混在させるような激しさになり登行が危ぶまれましたが、何とか山小屋に辿り着くことが出来ましたし、翌朝のご来光

を本七合目小屋で拝む事が出来ました。

富士急ハイランドに隣接する富士山温泉は、富士山の地下から汲み上げている温泉で、登山の疲れをぬぐい去ってくれると共に、流した汗を補給する地ビールの美味しいところでもあります。全員で無事を祝い合い、夕刻のバスで帰京したわけですが、新宿に降り立った際に何となく別れがたく、再び「思い出横丁(旧シヨンベン横丁)」に繰り出し、今度は酒と疲れでフラフラになって帰宅しました。皆さんも一度は富士山へ如何ですか。

## 人生の四季

### 自己紹介

南高15回卒 鈴木 隆

人の一生を四季、春夏秋冬になぞらえれば、僕はもっか晩秋から初冬へと移りつつある。

1970年、大学を卒業し、世界最大の漢和辞典、諸橋轍次著『大漢和辞典』全十五巻を刊行する出版社、大修館書店に入社した。14年ほど研究開発部と編集部で働き、1984年に自らの出版社、「書物学」の株式会社タングラムを創業し、今日に至っている(詳細はHP参照。出版社タングラムで検索)。

1985年、本業の副産物として、

僕は夏目漱石の『吾輩は猫である』に英国の書物礼讃の古典『フィロピブロン』からそのまま引用した記述が3箇所あることを発見した。

12年後、その発見の一部始終を『東京新聞』(1997年8月16日)はトップ記事(第1面と第3面)であつた。また『中日新聞』は第3面で大段的に報じた。さらに2002年、岩波書店版『漱石全集』第1巻の『吾輩は猫である』の「注解」に初めて3つの引用のことと僕の名前が記された。

僕は本業のかたわら2つの分野、「横浜学」と「ライフワーク学」の探究に傾注してきた。

前者では、市民の都市研究の場「『横浜学』を考える会」を創設し、ボランティアで20数年間、その活動を支えた。ここ10年ほどは関東学院大学で非常勤講師として都市学や横浜論を教えている。近年、横浜学の



成果の1つとして、『渡辺多満の生涯』(タングラム)を上梓。本書は米国のスタンフォード大学図書館にも入った。また、後者では、ライフワーク総合研究所を創設し、日本人の生きがい进行研究してすでに四半世紀になる。1997年、『ライフワーク発見法』(三省堂)出版。現在、古今東西の異能たちを紹介する「ライフワークの達人」(みやび出版)を連載中だ。

やがて人生の厳冬期がやってくる。それでも僕は今までのように僕らしく生きるだろう。 終わり

## 終の棲家

南高25回卒 鈴木 淳一

2年前に、入社以来約30年間の住宅生活を卒業して、山形市に終の棲家としての家を建てた。8年ほど前から物色を始めて、6年前に「蔵王みはらしの丘分譲地」を知り、2年後には希望の区画が販売されたので土地を購入し、更に2年かけて都内のモデルハウスを見て回りやっと思いついた通りの家を建てる事ができた。住所は山形市であるが上山市との境界に位置し、蔵王連峰を見渡せるとも景色の良い分譲地である。

比較的高台にあるので山形市街を見下ろすことになり、夜景も綺麗である。町自体が新しく、帰る度に少



しずつではあるが街並みが広がって  
いくのが楽しみでもある。

この秋には目の前にグラウンドゴルフ場がオープンした。ゆくゆくは自分も参加することになるのかも知れない。今は、ひと月に1〜2回の頻度で週末に山形へ帰る生活である。普段は千葉の流山から溜池山王に通勤しているが、金曜の夜は、会社帰りにそのまま20時44分の東京駅の幹線に飛び乗ると、23時41分には蔵王駅に着くことができる。土日のまる2日間を山形で過ごし、月曜の朝6時42分にかみのやま温泉駅から新幹線に乗れば勤務先の溜池山王には9時30分の出社時刻にぎりぎり間に合うことができる。「大人の休日倶楽部」を活用すれば交通費をかなり節約することができる。

問題は新幹線の2時間半の過ごし方であるが、最近は新幹線の車内にコンセントが設置されており、ノートパソコンをバッテリー切れの心配をすることなく使うことができる。

実はこの文章もかみのやま温泉から大宮までの新幹線の中でノートパソコンで書き上げたところである。



## 私の海外体験記 (フライリッピン編)



南高28回卒  
奥山 俊一

今から25年前の海外体験談です。商用でフライリッピンに滞在中ゴルフの誘いを受けました。その時に「小銭をいっぱい用意して行ったほうがいいよ！必要になるから」とのアドバイス？当日スタートホールに行くと、たくさんの子供たちがいて何事かと思ったのですが、直に分かりました。小銭目当てのキャディーさんだったので。彼らにはそれぞれ役目があり、ボールをティーに置く人、笠を差してくれる人、飲み物を持つてくれる人、スコアを記録する人、もちろんバッグを持つ人、等々。1人にそれぞれ付く訳ですから、まさに大名行列です。

ギャラリーの多さで緊張です。第1日目はOBらしき方向へ、暫定球を打とうとしたら、「大丈夫です。行きましょう」との事。とりあえず行つて見ることにしました。驚きです。なんとボールがいい所に出ているのでは、ありませんか。パートナー曰く、「はい、チップ用意して」。OBのボールを捜して、いいところに置いてくれる役目の子供たちもいる

との事。

さあ池越えのショートホールに来ました。池の周りには潜水態勢の子供たちがいっぱいいます。池ボチャのボールを狙っているのです。「チクシヨーム、意地でも乗せてやる。」「ザクツ」力みました。見事に彼らの望み通り池の中へ・・・。それからが圧巻です。20人位の子供たちの姿が一瞬にして消えました。皆河童です。暫くして1人の少年が水面に浮き上がり、得意げに右手を高々と掲げました。手の先には、ゴルフボールがもちろんチップの用意です。そんなこんなで、無事プレーが終わりました。スコアはもちろん良かったです。ポケットの中の小銭はきれいに無くなっていました。

## 東京の空から

南高34回卒 笠原 健

私と南高の出会い、中学2年のときに山形市営球場に、甲子園予選の観戦に行ったときである。当時は後にプロ野球のドラフト会議で指名された滝口投手を中心としたチームであった。

中学の進路指導の先生に脅かされながら、何とか南高に滑り込んだのだが、校舎の建替えのため、憧れのグラウンドで野球が出来たのは1年の夏までで、1年の秋から2年の冬

までの約1年半は、山形銀行さんや山形大学さんのグラウンドをお借りして練習する日々だった。この環境下の野球部の監督を務めてくださったのが、滝口投手と同期で三塁手であった鈴木敬一監督である。鈴木監督は、山形大学に入学したばかりであったが、ご自分の学生生活を犠牲にして我々を指導してくださった。後で伺った話だが、私は殴られても向かってくるタイプらしく、私を殴ると他の部員に緊張感が走り、練習が引き締まるそうで、「笠原は毎日殴る」と決めておられたそう。

高校を卒業してから30年ほど経つが、30代半ば頃からか、会社の同僚や上司に、体力や精神力について評価をいただくことが多くなり、遅まきながら、南高で鍛えていただいた身体と精神がその礎となつていふことに気がついた。感謝の意を表するために、バッテリーングマシーンでも寄贈するのが良いかどうかと思つていたところ、5年ほど前に初めて東京同窓会の案内をいただいて、在校時に野球部の東京遠征で大変お世話になった齋藤常男さんが会長であることも動機の一つとなり、2年前から母校に対する恩返しと思つて参加させていただいていいる。

今後とも、東京同窓会を通じて、1人でも多くの同窓生と一緒に、東京の空から山形の空へ、感謝の気持ちで母校にエールを送りたい。





### 『黒部奥山見廻り日記』

著者 杜あきら

南高12回卒 毛利 昭

さて、この度、「黒部奥山見廻り日記」なる本を刊行しました。「江戸幕府の頃、加賀藩は黒部川流域への立ち入りを禁止すると同時に、その取締の『廻り役』を置き、定期的この地を巡視していた。しかし、この役に携わる者は、通過する谷筋や植生などについては、親子と言えども口外できない定めとなっていたため、記録は一切残っていない」を基本とした時代物です。

四捨五入すれば百歳に手が届く老体が、暇に任せて書いたものですが時間があれば手に取ってみてください。発行所(株)郁朋社。9月20日頃から店頭に並び予定です。

天下の公器を使つての広報に気が引けますが、先輩諸兄にも目を通して頂きたく案内を致しました。ご容赦ください(毛利)。

価格1500円+税金



## ★ビッグニュース★

常任幹事佐藤守彦氏(南高14回卒)の拓殖大学レスリング部の後輩がロンドンオリンピックで金と銅を獲る!

**フリースタイル**  
**66キログ級 米満達弘(自衛隊)が金**  
**55キログ級 湯元津一(自衛隊)が銅**

佐藤氏はOB会長として大学挙げての祝賀会の陣頭指揮を執られた。  
おめでとうございます!

## 平成23年度物故者

平成23年9月27日以降  
24年9月14日判明分まで

平成23・11・19	今川 昌弘先生 音楽	(旧職員)
平成24・1・10	小林 正明先生 英語	(H4・4~8・3)
平成24・1・18	桜田 清高先生 国語	(S47・4~56・3)
平成24・3・2	工藤 正三先生 英語	(S62・4~H4・3)

4回卒	坂野 啓輝	24・5・9	42回卒	鈴木 宏	24・4・28
4回卒	河田 吉助	23・12・18	25回卒	和田 章雄	24・6・8
3回卒	松田 英夫	23・12・6	20回卒	奥山 克弥	24・8・4
3回卒	伊藤 公是	24・2・19	20回卒	遠藤 由起夫	23・5・7
2回卒	真野 紀行	23・7	19回卒	阿曾 信	24・12・27
2回卒	西沢 昭吉	23・5・30	16回卒	岡田 昭彦	24・8・8
2回卒	武田 邦明	23・5・3	16回卒	荒井 伸明	24・3・30
2回卒	武田 利弘	24・5・下	14回卒	鈴木 高明	24・4・10
2回卒	鈴木 達男	24・7・末	14回卒	海野 信夫	24・7・24
2回卒	川田 義彦	23・11・24	13回卒	酒井 武久	23・2・14
2回卒	加藤 清	23・秋	13回卒	岩田 貞治	23・4・16
2回卒	大沼 明弘	24・7・6	12回卒	阿部 吉博	23・2・11
2回卒	大沼 孝志	24・6・26	12回卒	濱田 英樹	23・6・3
2回卒	梅津 孝昭	24・1・31	12回卒	鈴木 正道	24・1・19
1回卒	椿 尋昭	24・1・3	12回卒	木元 俊彦	24・11・13
2回卒	高橋 正義	24・1・3	11回卒	大沢 敬司	23・2・19
2回卒	高橋 正義	24・1・3	11回卒	山口 隆	24・8・20
4回卒	武田 恒雄	23・12・30	10回卒	五百川 昭夫	24・3・29
4回卒	粕川 文男	24・1・10	10回卒	牧野 晃二	24・5・19
4回卒	井上 雅晴	24・8・10	10回卒	小林 秀幸	24・12・19
2・3回卒	五十嵐 徳太郎	23・9・27	10回卒	伊藤 多代	24・6・29
1回卒	渡辺 輝雄	24・1・16	9回卒	長沼 邦幸	23・11・8
1回卒	漆山 敬三	23・6・16	9回卒	大石 富男	23・12・6
1回卒	伊藤 康信	24・6・9	8回卒	熊谷 博正	24・2・9
7回卒	鈴木 泰道	23・7・28	7回卒	原田 康信	24・10・21
7回卒	石澤 哲	23・7・21	7回卒	鈴木 泰道	24・10・21
6回卒	会田 豊彦	24・3・17	6回卒	石澤 哲	23・7・21
5回卒	今井 登貴三郎	24・2・17	5回卒	会田 豊彦	24・3・17
4回卒	三浦 二夫	23・10・28	4回卒	石澤 哲	23・7・21
4回卒	丸 庄司	23・9・24	4回卒	三浦 二夫	23・10・28
4回卒	武田 繁豊先生 化学	(S27・4~40・3)	4回卒	丸 庄司	23・9・24
平成24・7・28	阿部 康雄先生	(S58・4~63・3)	4回卒	丸 庄司	23・9・24
平成24・8・29	伊藤 太喜男先生 英語	(S26・3~42・3)	4回卒	丸 庄司	23・9・24
南高23回卒	南高23回卒	二中1回卒	4回卒	丸 庄司	23・9・24
南高4回卒	南高4回卒	二中1回卒	4回卒	丸 庄司	23・9・24





母  
校  
へ  
の  
熱  
き  
思  
い







話  
の  
つ  
い  
せ  
ぬ  
思  
い  
出







我  
ら  
仲  
間  
は  
い  
つ  
ま  
で  
も





# 若い人たちに 受け継がれる





平成23年度会計報告

# 山形南高東京同窓会 平成23年度 収支決算書

<収入>

(単位：円)

項目	H23予算額(A)	H23決算額(B)	比較増減(B-A)	摘要
総会会費	825,000	628,000	△ 197,000	男性@8,000×76名、女性@5,000×4名
年会会費	960,000	667,000	△ 293,000	@2,000×333.5名(振込手数料控除後)
寄付金	170,000	226,072	56,072	総会来賓祝金ほか
広告協賛	120,000	100,000	△ 20,000	
雑収入	0	121,761	121,761	預金利子、連合会返納金など
前期繰越金	9,771	9,771	0	
合計	2,084,771	1,752,604	△ 332,167	

<支出>

(単位：円)

項目	H23予算額(A)	H23決算額(B)	比較増減(B-A)	摘要
会場使用料	30,000	0	△ 30,000	総会会場、来賓控室は懇親会経費に計上
懇親会経費	800,000	665,934	△ 134,066	飲食費、抽選会景品代
会議費	130,000	90,300	△ 39,700	役員会・学年幹事会の会場料、弁当代等
総会案内経費	300,000	251,612	△ 48,388	
議案書印刷経費	200,000	152,250	△ 47,750	
事務費	120,000	103,516	△ 16,484	消耗品代、郵送運搬費、会報発送料、振込手数料等
東京同窓会会報	220,000	261,390	41,390	
ホームページ制作費	60,000	10,175	△ 49,825	
活動費	170,000	130,000	△ 40,000	同窓会本部総会広告協賛金、県人東京連合会総会協賛金・参加助成金
予備費	54,771	0	△ 54,771	
合計	2,084,771	1,665,177	△ 419,594	

次年度繰越(収入合計-支出合計) : 87,427円

# 山形南高東京同窓会 特別積立金 平成23年度 収支決算書

<収入>

(単位：円)

項目	H23予算額(A)	H23決算額(B)	比較増減(B-A)	摘要
前期繰越金	461,660	461,660	0	
寄付金				
合計	461,660	461,660	0	

<支出>

(単位：円)

項目	H23予算額(A)	H23決算額(B)	比較増減(B-A)	摘要
母校貢献策	0	0	0	
合計	0	0	0	

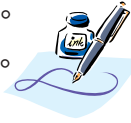
次年度繰越(収入合計-支出合計) : 461,660円

常任幹事	常任幹事	常任幹事	常任幹事	常任幹事	常任幹事	常任幹事	常任幹事	常任幹事	常任幹事	常任幹事	顧問	顧問	顧問	常任顧問	監査	監査	副会長	副会長	副会長	副会長	会長		
山田健嗣	笠原健	西宮忍	我孫子雅敏	杉本俊夫	相馬和弘	村岡登	鈴木淳一	滝口成一	佐藤守彦	毛利昭豊	有海一宏	平澤裕司	土屋享	森谷雄亮	会田優喜	浅黄英也	高橋丘志	石垣三郎	小松栄三郎	早坂仁作	小原征四朗	山田勲	斎藤常男
(南高36回)	(南高34回)	(南高33回)	(南高29回)	(南高28回)	(南高28回)	(南高25回)	(南高25回)	(南高15回)	(南高14回)	(南高12回)	(南高11回)	(南高10回)	(南高2回)	(南高1回)	(南高4回)	(南高9回)	(南高9回)	(南高15回)	(南高7回)	(南高9回)	(南高8回)	(南高5回)	

23年度役員紹介

# 来年の原稿募集

700字前後。写真も可。  
原稿〆切 25年8月31日。  
メールでの寄稿歓迎。



[eizaburou@mug.biglobe.ne.jp](mailto:eizaburou@mug.biglobe.ne.jp)

〒286-0011 成田市玉造4-34-2

小松栄三郎まで

# 山形南高東京同窓会のご案内 ホームページ

URL:<http://yamanan.jp>

平成20年2月に正式公開  
新ホームページ 平成23年6月に公開  
(旧ホームページは平成23年12月31日で終了)  
HPの主担当者：村岡 登氏 (南高25回)



協賛広告募集中

お問い合わせ  
[info@yamanan.jp](mailto:info@yamanan.jp)

黒田	漆山	鈴木	飯野	武田	佐竹	石山
敏弘	敬人	孝幸	典朗	広幸	良一	清和
(南高44回卒)	(南高44回卒)	(南高39回卒)	(南高39回卒)	(南高34回卒)	(南高32回卒)	(南高32回卒)

お世話になります  
東京事務所の南高卒業生

## 私立大学 【212名】

千葉工大	芝浦工大	明治学院大学	立教大学	専修大学	日本大学	東洋大学	法政大学	東北学院大学	中央大学	明治大学	早稲田大学
9名	10名	5名	4名	12名	6名	8名	11名	32名	5名	9名	4名

## 国公立大学 【169名】

新潟大学	山形大学	東北大学
24名	66名	16名

母校の進学状況  
(23年度末)現役

## 篤志家のご寄付の お願い

東京同窓会の活動費のためにご寄付下さる方々を募集しております。  
郵便局の次の口座までご送金下さいませようお願い申し上げます。  
口座名：山形南高等学校同窓会東京支部 口座記号番号：00110-7-581420

\*編集委員\*

相馬	杉本	村岡	滝口	小松栄三郎
和弘	俊夫	登	成一	(南高15回)
(南高28回)	(南高28回)	(南高25回)	(南高15回)	(南高15回)

★多くの方々に寄稿していただきとうとうお願い、「会報」で原稿募集をしました。余り効果はありませんでした。会報編集の一番の悩みは寄稿の多寡です。多すぎても困るし、少なすぎてもお困ります。その案配が難しい。しかし、諦めません。また来年の寄稿を今号でお願いします。ぜひ寄稿してください。テーマは自由です、著書をご紹介しますので、情報をお寄せ下さい。今号で常任幹事の毛利昭氏(南高12回卒)の著書をご紹介します。

★後輩の現役諸君が頑張っています。やがて彼らも東京同窓会の仲間になることを願ってやみません。

★元副会長の椿 尋昭氏が1月31日に逝去されました。心から哀悼の意を表します。

編集後記



第10回総会にて役員一同



2012. 2. 3 新年会にて